東京石灰工業グループ

知的資産経営報告書2018

TOSEKI.

やさしさの、ガス。
SANO GAS

目次

1. 社長挨拶 ……2
2. 企業理念 ……3
3. グループ企業の紹介 ……4-6
4. 当社製品 ……7
5. 東石のこれまでの軌跡 ……8-10
6. 当社の強み-東石 ……11-16
7. 当社の強み-佐野ガス ……17-19
8. 東石の今後のビジョン ……20-21
9. 佐野ガスの今後のビジョン ……22
10. 会社概要 ……23-24
11. 本報告書について ……25

東京石灰工業グループは砕石、建設、ガス（エネルギー）、不動産、外食産業といった様々な分野と地域で事業を行う会社です。東京石灰工業としての根幹たる理念と理想を抱えながらお客様、地域の皆さまに選ばれ続けるフレキシブルさをバランスよく兼ね備えた組織を目指しています。つまり、先進技術など新たなステージに入っている現代社会の中でグローバルな考え方とローカルな行動を持つ「グローカル」な組織とでも言えるでしょうか。

全てのステークホルダーの方々に当社と付き合っていてよかったと思っていただけるために我々はどうすべきか、どう考えるべきかを日々志向しながら日々成長していかなければなりません。成熟期を迎えている日本の中で99.7%を占める中堅、中小企業が時代の変化の中で選ばれ続けるためには、自社の強みを理解し、できることを着実に実行することで「質」を高めていくことだと確信しています。

会社の成長は私を含め社員の成長に裏打ちされ、社員の成長は仕事に打ち込む意識やマインドの向上に裏打ちされます。経営者としては、社員がモチベーション高く働ける環境を提供することが今後の責任の一つであると考え、これまで社会に貢献するための財を提供して戦後の成長を支えてきた衿持を原点に、これからも社会の基盤を支え続ける責任を担える企業であり続けられるように努力していきたいと思います。

東京石灰工業株式会社
代表取締役社長
菊池 宏行

企業理念

■ 経営理念

Corporate Philosophy

一、　企業は社会の公器として事業を通し社会に貢献し、適正な利益を享受する。
一、　企業はすべての関係先との共存共栄を考えることで永続的発展をすることができる。
一、　企業は働く者が私心を捨て打ち込むことで成長することができる。
一、　企業の最大の目的は社会に選ばれ続けることである。
一、　企業経営は「永続性」の追求である。

当社では、企業を社会の公器（公のもの）として事業を通して社会に貢献する存在と考えています。企業は社会の一員、社員は企業の一員と考え、全体最適で物事を捉える視点を持って事業や仕事に邁進し、適正な利益を享受しながら、企業も社員も成長・発展して社会に選ばれ続け、永続的な発展を追求していきます。それにより、社会に永続的に還元し続けていくことを目指します。

■ 社訓 「水五訓」

一、　自ら活動して他を動かしむるは水なり。
二、　常に己の進路を求めて止まざるは水なり。
三、　障害に逢いて激しく其の勢力を倍加するのは水なり。
四、　自ら潔くして他の汚濁を洗い清濁合せ入るる量あるは水なり。
五、　洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霧と化し疑っては冷瓏たる鏡となり　然もその本性を失わざるは水なり。

私達は「水五訓」を次のように理解しています。
一、自らが動くと他が動く。つまり、率先して模範を示して周囲を牽引していくようにする。
二、前向きにどうすればよいか考え、進んでいくべきである。現状維持は後退である。
三、自分の進む道に堰（せき）があっても努力し続けることで、障害を打ち破り、乗り越えるためのエネルギーを膨らませていくことが重要である。
四、他を受け入れる度量を持ち、価値観の合わない人をもまとめて、全体最適を考えて良い方向に持って行くことが大事である。
五、水は環境によって変化するが、水としての本質は変わらない。同様に、信念を通すために、環境に合わせて柔軟に考え、対応していくことが肝要である。

私達はお客様から常に選ばれる企業になるよう、一人一人がこれを行動指針として常に心に留めて行動することで自身を成長させ、自社の発展に貢献し、お客様にご満足いただけるよう努めていきます。

グループ企業の紹介

Production

東京石灰工業株式会社

東日本に６採石場を展開。高い技術力により生産された砕石は、高品質を要求するJRやNEXCOからも評価されています。

Sell

東石物産株式会社　他

東京石灰工業で製造された製品を中心に土木資材を販売。 グループのネットワークを生かし、様々なサポートで、顧客の信頼を得ています。

Supply

佐野ガス株式会社

栃木県佐野市に、総延長180㎞のパイプラインを設置。ガスや電気の供給をおこなっています。

Construction

東石建設株式会社

栃木県南部を中心に活動する総合建設会社です。その他、グループ砕石工場内の整備等も行っています。

Transport

東石リース株式会社

製品の運送、ダンプトラックのリースを中心に、メガソーラー発電や、東京石灰工業で使用する資材の調達など、事業を拡大しています。

グループ企業の紹介

東京石灰工業株式会社

砕石は身近な存在で、日々使用している道路は、殆ど砕石で出来ています。また、橋や住宅に使用するコンクリートや、鉄道の線路の敷石などに使用され、私たちの生活を支えています。

当社は、栃木、茨城、福島、宮城県の４県内に６つの採石場と７つの工場を持ち、岩石の採取及び砕石の製造を行っております。

砕石の製造は、測量や大型重機を使用した採掘など、土木色の強い採掘部門と、破砕、選別等の工程を通し、製品を生産する製造部門に分かれますが、それぞれ創業70年で積み上げたノウハウがあり、高品質な製品を安定して供給しています。また、環境への配慮を怠らず、周辺の地域からも愛される工場を目指しています。

△採掘風景

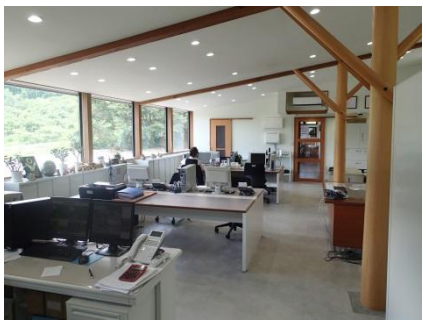
販売会社（東石物産㈱、東石日本砕石㈱、磐城砕石㈱、東石岩間砕石㈱）

東京石灰工業㈱にて生産した砕石を販売する会社です。販売量は年間で600万トンに達します。

お客様を訪問し、工事の打ち合わせや値段の交渉を行う営業部門、お客様の注文に合わせて製品を運送する配車部門、請求書の作成等を行う経理部門の３つで構成されています。

販売会社は、生産工場内に併設されているので、常に生産担当者との連絡を密に取ることができます。そのため、品質の問題や大型物件の対応といったお客様からのご要望にも迅速に行うことが可能です。また、毎日製品を自分の目で確認しているので、製品を身近に感じながら、自信を持ってお客様へ提供することができます。このような営業姿勢は高品質な製品の安定供給にも寄与していると考えています。

また、グループのネットワークを活用し、砕石以外の建材の手配や、様々な技術や市況などの情報をお客様に提供しています。これも、長期に渡り、当社が選ばれてきた理由の一つだと考えています。



△きれいで清潔なオフィス

東石リース株式会社

当社は、砕石運搬のために昭和37年6月、東石運輸株式会社としてその業務を開始しました。その後、平成17年より自動車のリース事業を開始。平成28年6月に東石リース株式会社へと社名変更し、運搬業務に加え、各工場へのダンプトラックのリース、消耗品の一括購入を行うなど、その業務は多様化しています。

各事業所へのリース分を含め、トレーラー3台、ダンプトラック27台を所有しております（2018年5月現在）。BCP（事業継続）の観点からもグループ内で使用する重機、ダンプ等を一元管理、リースする事で、グループ内の効率的な重機の稼働をめざしています。

△東石リースの本社

グループ企業の紹介

東石建設株式会社

グループ内の建設部門です。昭和37年から東石砂利工業㈱という名称で鬼怒川の河川内で砂利採取業を運営していた会社が母体です。昭和53年から建設業登録して建設業にも着手し、平成5年に東石建設㈱と名称変更しました。当時、地元建設業者の下請けをメインに東石グループの砕石工場のメンテナンスに携わってきました。

その後、規模の拡大に伴って元請け案件を増やし、佐野ガスのガス関連工事や地元自治体からの案件にも対応しています。豊富な実績と信頼ある技術力で栃木県南部地域を中心に地元のトップ企業を目指しております。

△東石建設の本社

△岩間砕石プラント完成

佐野ガス株式会社

当社は、栃木県佐野市を供給区域として、約8,700戸のお客様に都市ガスをお届けしています。また、その他周辺地域には、約2,900戸のお客様にプロパンガスをご利用いただいております。

付帯事業としては、栃木県内で宇都宮に次いで２カ所目の天然ガススタンドを設置し、国が進めている環境保全や石油依存度低減の施策に貢献するよう、天然ガスを燃料とする天然ガス自動車の普及に取り組んでいます。

また、電気の小売自由化後は、電気小売事業者として、工場、一般住宅への電気販売も行っています。

都市ガスの原料である天然ガスは、石油、石炭と比較してクリーンなエネルギーのため、天然ガス利用への補助金も充実しています。こうした中で、当社は総合病院や市役所、また工場、大型ショッピングモールなどにも冷暖房用燃料として供給しています。

環境にやさしい、安全でクリーンなエネルギーを、お客さまに安心してお使いいただけるように様々なサービスをご提案し、佐野市の澄んだ空気と緑を守り、「地域のみなさまとともに」より豊かな地域社会の発展に努めてまいります。

△佐野ガスの本社

△佐野ガスのガスタンク

当社製品

砕石はこんなところで役立っています

道路などのアスファルト

アスファルト舗装の主原料は砕石です。接着剤（アスファルト）で砕石を固めることで道路が造られます。

高層ビルで活躍するコンクリート

高層ビルから一般住宅まで、いたる所で使用されているのがコンクリートです。コンクリートは、砕石、砂、セメントと水を練り合わせて作られます。大きな建物を維持するための強度は、砕石によってもたらされます。

電車を快適に支える線路の敷石

線路は、道床用砕石（バラスト）の上にレールを引いて造られています。バラストは列車の振動と走行音を吸収し、快適な乗り心地に役立っています。

工業地の足下にひろがる宅地造成地

住宅や、工場などの建物は頑丈な基礎の上に建てられています。砕石や土によって造成工事が行われ、頑丈な下地作りが行われます。

東石のこれまでの軌跡

1941（昭和16年）

●東京石灰工業　創業当時の様子

1941年8月　東京石灰工業の歴史は栃木県葛生町（現　佐野市）から始まりました。

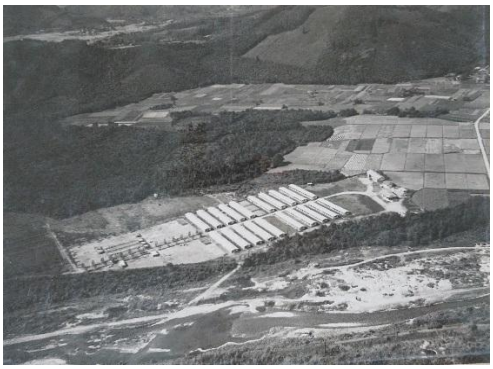
現在でも基礎の石垣の部分が保存されています ↓

1950年代（昭和25年～）

●佐野工場の現場作業風景

いち早く機械化を推進。当時のパワーショベルはワイヤー式でした。一部、機械化してはいたものの、まだまだ人力に頼る部分が大きかった時代です。

1957（昭和32年）



●田沼農場（養豚、果樹園の運営）

企業養豚事業としては日本初。機械化を進める過渡期に、「高齢者でも働ける職場づくり」の思いから、田沼農場が開設されました。養豚業、果樹園を運営していました。

現在、田沼農場跡地は「AWS産業団地」となり、企業誘致、雇用促進に貢献しています。

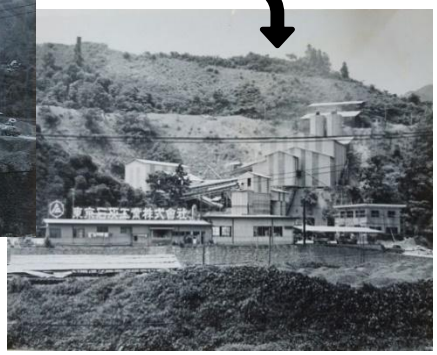
現在の「AWS産業団地」→

東石のこれまでの軌跡

1960～（昭和35年～）

●粉塵飛散防止用建屋の設置

高度経済成長期にさしかかり、環境問題がフォーカスされると、いち早く粉塵飛散防止の観点から建屋を設置しました。
当時の新聞でも、大々的に報道されました。

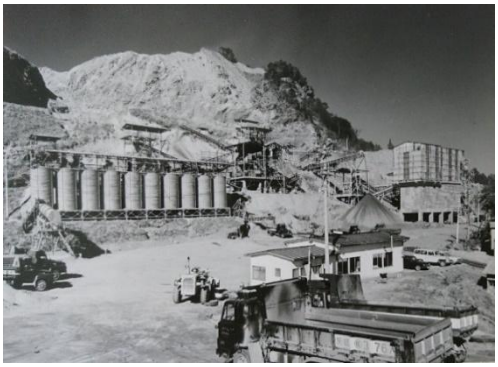


1972年（昭和47年）

●海外視察団（旧西ドイツ、中国）の受け入れ

戦後、その開発が本格化した日本の採石業。
四半世紀を過ぎて海外からの視察団を受け入れるまでになりました。

1980～（昭和55年～）



●工場の拡大

栃木県葛生町（現　佐野市）の工場から始まった当社は段階的に、茨城、福島、宮城の企業を買収。工場の数を増やしていきました。

●重機メーカーとの連携

機械化の進んだ砕石場で問題になったのが、原石積込み時のタイヤのパンクでした。
重機メーカーとの連携の中でバケット形状を変更したり、前輪のタイヤにチェーンを巻く事で、パンクを回避しました。

東石のこれまでの軌跡

1990年代（平成2年～）

●地元住民とのふれあい

通常、入場の出来ない砕石場内での化石拾い等地元の方々とのふれあいを大切にしてきました。

2000年代（平成12年～）

●社内にて技術発表大会を開始

各工場生産担当者が、業務の効率化、改善に取り組んだ内容を発表。グループ内で情報を共有し、日々の業務に取り入れる様になりました。

●環境美化への取組み

環境美化のため、植栽を積極的に行っています。 →

2011（平成23年～）

●東日本大震災時の被災地支援

東日本大震災の時には、被災地の飲料水の供給や砕石の提供に貢献しました。

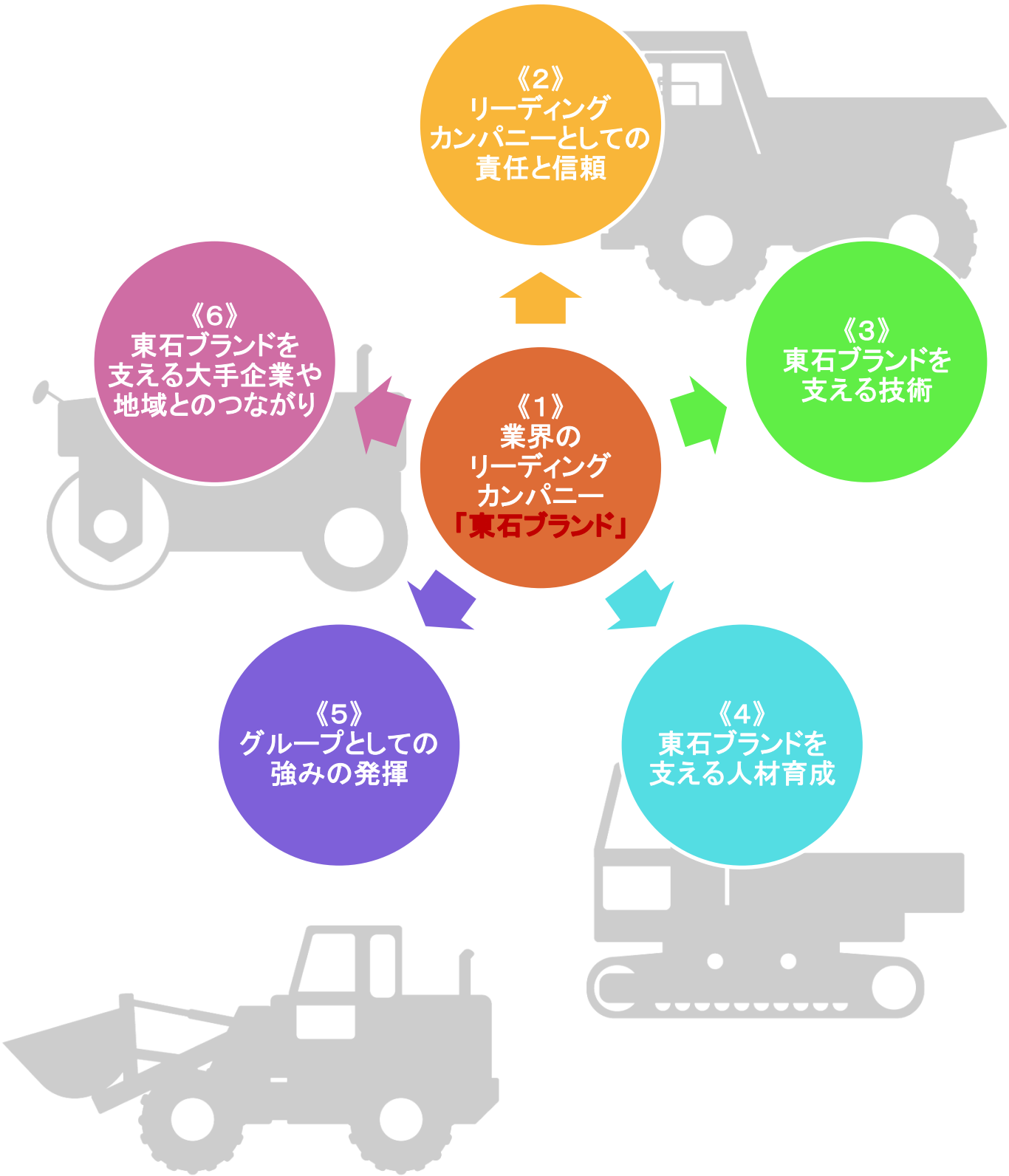
現在

●採石業の先駆者として

当社は採石業のリーディングカンパニーとして、2015年3月に経団連に入会。2016年12月にはレジリエンス認証を取得しました。

社会の公器として、地元地域に貢献できる企業づくり。それが私たちの願いです。

当社の強み-東石


《2》
リーディング
カンパニーとしての
責任と信頼
《6》
東石ブランドを
支える大手企業や
地域とのつながり
《1》
業界の
リーディング
カンパニー
「東石ブランド」
《3》
東石ブランドを
支える技術
《5》
グループとしての
強みの発揮
《4》
東石ブランドを
支える人材育成

当社の強み-東石

《1》
業界の
リーディング
カンパニー
「東石ブランド」

創業より70年以上が経ち、業界では、「東石（とうせき）さん」と呼ばれるほど、高い知名度を持ちました。グループ会社である「東石日本砕石」や「東石リース」などは、その愛称を頂いて社名としています。

現在は、東日本を中心に6つの採石場と7つの製造工場を持ち、業界ではトップシェアを占めています。なぜ、当社は選ばれ続けてきたのでしょうか。それは、高度成長期から、現在のような成熟期に至るまで、一貫して技術の向上や、資源の確保など、企業を永続的に発展させる努力を怠らなかったからだと考えています。グループ企業も、販売、運送、土木等、母体である東京石灰工業とシナジー効果の高いものが中心です。脇目をふらず、砕石を通して社会に貢献する。そんな思いが理解され、平成27年には、日本経済団体連合会より誘いを受け、業界で初めて入会することになりました。

《2》
リーディング
カンパニーとしての
責任と信頼

（1）環境配慮への取組み

「企業の永続的な発展」を旗印に業界のトップを走り続けてきた当社にあって、環境への取り組みは避けて通れないものでした。現在では環境への注目が高くなってきていますが、当社は創業当時から環境対策に注力しています。いち早くプラント周りに建屋を設置し、粉塵の飛散を防止したり、ダンプトラックのタイヤに付着した砕石が、道路を汚さない様にダンプの足洗い場を設置したりしています。

また、定期的な道路清掃、発破振動（火薬爆破による振動）の軽減など、近隣住民への配慮も怠りません。現在は自然エネルギーの有効利用のため、砕石場としては初めてメガソーラーを設置したり、環境対策型のハイブリット重機や天然ガス仕様のロードスイーパー車を導入したりすることで環境に優しい企業運営を実践しています。

ロードスイーパー車▷

△ダンプの足洗い場

また、これまで年間50本ずつ桜を植樹してきましたが、さらに地域の方々にも見て頂けるよう、各工場に桜を植える「桜プロジェクト」を計画、推進しています。

（2）安定・安心の事業運営に向けた取組み

3.11の東日本大震災を契機に安定・安心の事業運営のため、BCP(事業継続計画)ならびにレジリエンス認証の取得を致しました。BCP、レジリエンス認証とは被災後の復旧目標を設定し、その目標達成のために弱点（ボトルネック）を把握、その対策を講じるものです。

当社の場合は、被災三日後の出荷開始を目標に設定しています。常に、１ケ月の製品ストックを持つこと、重機の燃料となる軽油を、敷地内のタンクで確保すること、通信連絡手段を維持する為に事務所に発電機を設置することで対応しています。また、通常業務で行われている重機のローテーションも災害時を想定し、廻送訓練として実施しています。

《3》
東石ブランドを
支える技術

（１）業界の先駆けとなる技術開発

技術その１：採掘の安全性を高める**「ベンチカット工法」**

かつて、石の採掘には、人が山の斜面に火薬を仕掛けて、山を崩して採掘するという方法を採用していました。これらの方法は危険度が高く、実際多くの事故を起こしました。

現在は、山の頂部より、地盤が水平になるように5～10m採掘し、採掘が終了したら、その下を同様に採掘、これを繰り返し、採掘後の形状が階段状になる「ベンチカット工法」が主流で、その安全性の高さから、行政からも採用を指導されています。この工法は、当社が砕石先進国であったヨーロッパ、アメリカを視察した後、日本でいち早く取り入れました。

技術その２：作業性、安全性の大幅な向上に寄与する**「油圧式クローラードリル」**

昔は爆薬を装填する穴を掘るのに、空圧式削岩機を使うのが主流でしたが、削岩能力が低く、粉塵の発生による人体への悪影響の問題がありました。そこで、作業性、安全性を大幅に向上させる油圧式クローラードリルをメーカーとともに開発しました 。

技術その３：水溜りのできない舗装を作る**「特６号」**

製品では、高速道路等で、水溜りのできない舗装（排水性舗装）がありますが、これは、アスファルト舗装の中にすき間を作ることで、雨水が染み込みやすい仕組みになっています。お米を水飴で固めた「おこし」というお菓子がありますが、この舗装はそれに似ています。お米が砕石で、水飴がアスファルトです。ここで重要なのは、均等なすき間を作ることです。すき間が均等でないと雨水が上手く浸透しません。そのためには、原料である砕石の粒が、球に近い形状である必要があります。たくさんのボールを容器に入れた場合、均等にすき間ができることを想像してもらうと分かりやすいかもしれません。その球形に近い砕石の製造のために、日本で最初に整粒機を取り入れたのが当社です。整粒機を通した製品「整粒６号」は、「特６号」と呼ばれることが多いのですが、その名称は当社が命名したものです。

技術その４：管工事の管を傷めない「東石サンドクッション」

ガス管や水道管工事の埋戻し材は、一般的に山から採掘する山砂を使用しますが、天然の資源であるため粒の大きさにばらつきがあり、大きな粒があると管を痛めてしまうことがあります。そこで当社は、管を傷めないように粒度調整をした「東石サンドクッション」を開発。これも、お客様より好評価をいただいています。その他、規格にない特殊サイズなど、他社では製造困難な製品も提供し、顧客からも高い信頼を得ています。

その他の技術

砕石の製造には多くの重機や設備を使用するため、それらをきちんと管理することは難しく、手間が掛ります。そこで、重機の燃費や、消耗品の交換状況等を管理する「機械管理」、破砕設備の時間当たり処理量や、整備状況等、製造ラインを管理する「プラント管理」、爆薬の数量等を管理する「火薬管理」といったソフトを自社開発し、効率的に生産管理を行えるようにしています。

重機管理システム

火薬管理システム

（２）リーディングカンパニーとしての技術力

何よりも、砕石の製造で難しいのは、安定した品質の製品を、安定して生産することです。当社は、生産性や品質向上のため、積極的に最新の設備を導入しています。また、重機等の定期的な入れ替えを行い、生産の信頼性を高めています。その他、JIS工場ならではの徹底した品質管理体制の構築、悪天候でも生産できる採取場の管理、管理システムの構築による突発的な故障の防止、万が一に備えた十分な在庫の確保など、東石ブランドに恥じない生産活動を続けています。

品質方針（Quality Policy）

わたしたちは、社会の基幹産業たる骨材メーカーとして、
安定した品質の製品を継続的に供給し続け、地域社会の発展に貢献します。
社員全員が品質管理の知識を共有し実行していくために品質方針を掲げ、
整った体制のもとで堅実に守っていくことを目指しています。

《4》
東石ブランドを
支える人材育成

（１）オールマイティな社員の育成

「作業者では無く技術者であれ」
「定期的な配置転換でオールマイティな社員に」。

これらは創業当時から言われている言葉です。従業員一人一人がより生産性を高めるために自ら考え、変化を受け入れながら業務に従事しています。定期的な配置転換により、それぞれの仕事内容を相互に理解し、多角的に物事をとらえる事ができています。資格取得も積極的に推進しており、100名程の従業員数に対し、採石業務管理者が20名。掘削作業主任者が40名以上在籍しています。業界の中でも高い取得水準と考えています。

また、本来は外部に委託することの多い申請業務、許認可のための書類作成も社員が行っています。こうすることで、私たちの従事している砕石業をより深く理解し、質の高い仕事をすることができる様になります。

主な資格一覧（2018年4月現在）

資格	人数
採石業務管理者	20名
甲種火薬類取扱責任者	35名
測量士、測量士補	4名
工業標準化品質管理推進責任者（IQC）	10名
危険物取扱者乙種第4類	25名
《その他資格》 ・乙種上級保安技術職員（鉱山資格） ・第3種電気主任技術者 ・1級建築士	

研修の様子▷

（２）リーディングカンパニーとしての意識の醸成

創業当時、一般的に砕石業は肉体労働の３K職場でした。汚れたままの作業着での通勤が、そのイメージを周囲の人々に印象付けていた様に思います。しかし、当社は、昔からユニフォーム（通勤着）と作業着を区別し、汚れた姿のまま通勤する事はありませんでした。この取り組みは、「汚さない、汚したままにしない」という技術者としての意識の醸成につながっていきました。また、工場を訪れるお客様に対しても全員で対応。全員でお見送りするなど、ビジネスマナーの教育にも力を入れてきました。

このことは、リーディングカンパニーとしての採石業のイメージ改善に大きく寄与しています。

当社の強み-東石

《5》
グループとしての
強みの発揮

当グループは、関東及び東北に集中して事業を展開しています。そのため、事業所間の情報交換が活発です。各営業担当者は、常にタブレットを携帯し、入手した情報をタイムリーにアップします。それを他の営業担当者や現場担当者が確認し、コメントすることを日々行っています。このチームプレーは、複数工場を持たない同業他社には真似できません。また、大量発注の場合も、複数の工場から納入することが可能なので、大型プロジェクトに参入しやすいこともメリットです。営業のみならず、製造でも、消耗品の融通や、購入単価などの情報共有を行っています。技術面でも、グループの技術論文を毎年とりまとめて、情報を共有しています。

また、東石建設とは、砕石を通しての繋がりのみならず、砕石工場内の整備や工事を依頼することもあります。佐野ガスも無関係ではなく、ガス管の埋設工事等の仕事を東石建設が請け、東京石灰工業が砕石を提供するということもしばしばあります。

《6》
東石ブランドを
支える大手企業や
地域とのつながり

（1）大手企業との長い取引

旧国鉄時代からJR東日本管内の線路の敷石（バラスト）の納入をしています。また、NEXCO発注の高速道路向けのアスファルト合材の原料として砕石の納入が続いています。また、全国６カ所のオートレース場で、当社の砕石が採用されています。これは安定的な納入と品質の維持によるものと自負しております。

関東から東北地方のJR線の敷石の一部は当社の製品です。ぜひ意識して乗ってみてください。

関越道、東北道、常磐道、上信越道、北関東道、東関東道、仙台東部道路、磐越道など、関東以北の道路には当社の砕石が使われています。

（2）地域住民との良好な関係

また、定期的に地元住民の方を招いての工場見学会を開催しています。昔も今も変わらず、地元の小学生を中心に普段は見る事の出来ない工場内の様子を見学して頂いています。大型重機を間近で見たり、運転席からの眺めを楽しんだりして頂いています。顧客と地域住民に愛される企業運営を進めています。

△地元の方々と化石探し（昔）

△工場見学の様子（現在）

△そうめん流しの様子

△散布体験

当社の強み-佐野ガス

佐野ガスは、1955年（昭和30年）のガス事業開始から旧佐野市内を中心に60年以上にわたりガス事業を営んでいます。そのため、佐野市のガス屋といえば「佐野ガス」を思い浮かべていただくほど地元では知らない人がいない会社です。佐野市のアパートに引っ越したらガスの開栓は「とりあえず佐野ガスに連絡」と思われ、別のLPガス会社が管轄しているアパートであっても間違って電話を受けることもしばしばあります。

今後も佐野市を拠点に地域に密着した安心で安全なガス会社を目指し、「佐野ガス」だけではなく「東石」のネームバリューも活用して、佐野市内のより多くの皆様へ安心して都市ガス、LPガスを届けられるように展開していきます。

１．東石グループとしての責任と信頼

（１）環境配慮への取組み

栃木県内に２番目となるエコステーションを建設し、県南部の商用車、公用車を中心にご利用いただいております。天然ガス自動車はCO_2排出量をガソリン車やディーゼル車より低減できるため地球温暖化防止に役立ちます。また走行距離もガソリンエンジンとほぼ変わらず、燃料費も安価なのが特徴です。お客様の声では、「以前のガソリン車に比べて大幅にランニングコストが削減された。もう手放せない。」といった声が多く寄せられています。グループ内でも、ガスパトロールカー、お客様サービスカー、ロードスイーパー車などに天然ガス車を積極的に導入し、石油依存度の低減を図るための努力をしています。

△エコステーション

△佐野ガスの天然ガス自動車

（２）安定・安心の事業運営に向けた取組み

佐野ガスは、365日24時間、緊急対応に備えて待機しています。ガスもれの疑いや消防署から火災通報等があった際は、即時駆けつけ、ガスの臭気の確認、ガスもれ調査、ガスの遮断など迅速に対応できるような体制をとっています。

また、地震に備えた事前の対策として、1986年より地震に強いポリエチレン管を積極的に導入し、地震による被害の軽減に努めております。この結果、東日本大震災の時でも、お客様のご家庭にガスを途絶えさせることなく安定的に供給することができました。ガス業界全体の取り組みとして、低圧導管耐震性向上目標、耐震化率2025年度末90%を目指している中で、当社は既に94.6%の耐震化率を達成しています。

３．東石グループとしての確かな技術

ガス導管延長は旧佐野市を中心に約180km、また約7,500本もの供給管が各々のご家庭に向けて埋設されています。このガス導管管理を行っていく上では、導管網図が常に正しくなければなりません。当社では、導管網図は４半期ごとに更新を行ない、最新の導管情報が検索できるようになっています。外出先では、タブレットにてガス管の位置情報、埋設当時の工事日報、工事写真など閲覧ができ、現場でのスムーズな対応が可能となっています。万が一の震災時に備え、被災した際には、速やかに救援隊へ最新の導管情報が提供できるような対策を講じています。

橋梁へのガス管添架工事▷

４．東石グループとしての確かな人材の育成

（１）多い有資格者

ガス主任技術者は、ガスを安全に供給することが使命です。ガスは取扱いを誤ると重大な事故につながる場合もあります。そのため、ガスの性質を正しく理解し、ガス工作物（ガスの製造から供給までに関わる設備）の工事や維持・運用を行うことで人々の快適な暮らしを守るのがガス主任技術者の責務です。ガス主任技術者は国家資格であり、ガス事業者は事業場ごとにガス主任者を配置することが法令で定められています。

ガス工作物の工事、維持および運用に関する保安の監督を行うことができる範囲に応じて、甲種、乙種及び丙種の3種類があり、すべてのガス工作物の工事・維持・運用ができる点で甲種は取得が非常に難しい資格です。平成30年６月現在、甲種３名、乙種２名、丙種５名の計10名で、外回りの社員の約６割が資格取得者になっております。

また資格取得だけでなく、定期的に勉強会を開き、常に知識の研鑽に務めております。

主な資格一覧（2018年4月現在）】

資格	人数
甲種ガス主任技術者	3名
乙種ガス主任技術者	2名
丙種ガス主任技術者	5名
《その他資格》 ・2級管工事施工管理技士 ・1級土木施工管理技士 ・給水設置工事主任技術者	

△溶接研修

（２）オールマイティーな社員の育成

営業部門、管理部門などの職制に関わらず外回りの全社員がお客様の声を大切にし、お客様第一で行動しています。外出先でもタブレット端末を活用した情報収集を行って、お客様のニーズに適切かつ迅速な対応ができる環境作りを行っております。

５．大手企業や地域とのつながり

（１）大手企業との長い取引

ガス事業を開始した当初は製造ガス（石炭ガスやブタンガス）にて都市ガスを供給していましたが、1974年からは国際石油開発帝石株式会社の新潟県長岡ガス田より高圧ガスパイプラインによる国産天然ガスの受入れを開始しています。2013年より新潟県の直江津基地に液化天然ガスが輸入された事により、現在では混合した都市ガスを受入れています。

また、2004年から東京ガス株式会社の千葉県袖ヶ浦基地から高圧パイプラインによる液化天然ガスの受入れを開始し、2016年からは茨城県日立基地からのパイプラインも接続されたことにより、ガス供給能力は更に向上しました。

国際石油開発帝石株式会社と東京ガス株式会社の２社からの受入れ体制、集中監視によるガスの送出量や圧力管理などによりガスの安定供給に取り組んでおります。これからも地球環境に優しい天然ガスを安心してお使いいただけるように努力してまいります。

佐野ガスの厚生棟　▷
ガスがガスタンクから各ご家庭に届くまでを描いています。

（２）地域住民との良好な関係

従業員のほとんどが佐野市出身であり佐野地区安全運転管理者協議会の交通安全街頭指導、佐野市の防災活動、町内の美化活動にも積極的に参加し地域住民との関係づくりに取り組んでいます。

また、1968年（昭和43年）から当社主催のガス機器の展示会を実施しています。一年に一度のこのガス展を楽しみにしてくださっている方々も多く、毎年、約3,000組ものお客様にご来場いただいております。佐野ガスにとっても多くのお客様と触れ合う機会となる大事なイベントです。

旧佐野市内を中心に６０年以上、地元に根付いた活動を行ってきたことで、地域住民の皆さまからの熱い信頼を獲得してきました。今後もさらに地域のお客様との絆を深めていきたいと思っております。

△佐野ガス主催のガス展の様子

東石の今後のビジョン

1 人材採用・育成

若手の採用

管理職および
ベテラン営業マンの育成

会社の質は、働く社員の質の総和です。いかに社員の質を上げるか、それが最重要課題です。それぞれの仕事に対し、高い技術力や深い知識を持つことも重要ですが、全体最適を判断するには、幅広い視野を持つことが重要です。当社では、オールマイティな社員を育成する事を目的として、内部・外部の教育を積極的に実施していきます。また、積極的に女性の採用を行うことで、女性の目線から労働環境を見直し、有能な人材の確保できる会社にしていきます。

また、営業担当者も、値段だけで勝負するのではなく、メーカーの営業として付加価値提案ができる人材に育てていきます。管理者に対しても教育を続け、高いレベルでの工場管理を目指します。

2 既存事業の基盤強化（営業力の強化）

既存のお客様に対しては、現在取り入れているお客様との関係構築をスムースにする営業ソフトやシステムを活用して、迅速できめ細かな対応を行って、さらなるお客様の満足度向上に務めていきます。

また、当グループの知名度、JIS工場ならではの高い品質管理能力、技術力、提案力、安定した供給力を武器に、新規のお客様の開拓に努めていきます。

3 運送の効率化と運転手不足への対応

運転手不足による輸送力の低下は喫緊の課題です。高齢化により運転手の数が年々減少しているのが実情であり、若手ドライバーを雇用するために、魅力ある仕事としてアピールしなければなりません。

そのため、当社では労働環境の改善を図るとともにパート社員からの正社員登用制度や大型免許取得費用の補助を行うなど、運転手の雇用・育成に力を入れていきます。

工場内でのダンプ滞在時間を減らすことで、輸送の回転率を高めることも重要です。効率化のために、タブレットを利用して、今まで口頭で伝えていた納入先や、製品の種類を直接ダンプに指示することで、ダンプから降りて事務所へ来る時間を削減します。また、製品積込のオペレーターにもタブレットを使って積込順を指示することで、積込待ち時間を短縮させます。最終的にはIoT、AIを利用して、効率的配車ができる運送システムの構築を目指します。

さらに、閑散期に需要地に近い箇所に製品をストックして、繁忙期のダンプ不足に備えることも考えていきます。

このような取り組みを行うことで、「オーダー通りに納入できる東石」として「普通」のことを「普通」に行い続けていく事で顧客満足度を高めてまいります。

東石の今後のビジョン

4 IoT、AIを活用した生産効率性アップと人手不足の解消

営業活動や配車のみならず、工場管理や工程のチェック、製造設備や重機の操作などにおいてIoTやAIを活用して自動化・効率化を図り、生産現場のスマート化を推進して、労働人口減少に対応していきます

5 事業継続力アップと事業スケールの拡大

- 新規事業開発
- M&A

景気の影響を受けやすい砕石業界において、安定した価格、出荷数量を保つことは、簡単ではありません。今後、当社は、建設関連企業を相手とした事業のみならず、一般消費者や一般企業に向けた事業にも目を向けていきます。砕石が欲しいと思っている個人は多いのですが、購入方法がわからずに、悩んでいるようです。ホームセンターで、割高な袋詰めの砕石が売れていることがそれを証明しています。この様な新しいマーケットを率先して開拓していきます。

また、高い品質を持ちながら、利用法が限られているため、余剰になった製品についても活用先を見出し、資源の有効利用を図ります。

そして、70年以上砕石事業に携わる中で得た技術、ノウハウを生かし、M&Aにより事業規模の拡大を図り、事業の継続性と安定性を実現していきます。

以上の取組みを通して、成熟した業界の中にあっても常に革新を求め、社会的に必要不可欠な役割を持つ当業界を盛り立てていくことを当社の使命とします。

佐野ガスの今後のビジョン

1 ガス事業の根幹である保守基盤のさらなる強化

経年管取替工事の推進
（2020年までに完成）

専属的な保安教育人員の配備
保安教育、社内教育の推進

震災時の小ブロック化、
ガス供給停止の自動化などの
システム導入

佐野ガスではガス事業の根幹である保安の確保を最重要事項として捉え、保安教育や社内教育を数多く開催することでガス工作物の工事、維持及び運用に必要な知識の習得や緊急時の初動方法等について学んでいます。さらに社内教育を通してベテランから若手への技術の継承を進めていき、将来を担う技術者の育成強化に努めていきます。

また、経年化したガス管から耐震性の高いポリエチレン管等へ入替する工事を積極的に行っており2020年の完了を目指し計画的に進めております。更に大規模な地震に備えて地域をいくつかの供給ブロックに細分化し、被害が甚大となることが予測されるブロックへの供給停止の自動化などのシステム導入等を検討していきます。

2 営業力の強化

営業のエキスパートの設置

既存顧客への提案営業の
強化

小口新規客の開拓による
経営の地盤固め

お客様の快適な生活のため、ガスコージェネレーションシステムによる発電や給湯といった省エネ機器のご案内、高齢の方の身体への負担が少ない浴室暖房や床暖房など快適な設備との併用のご提案、「ガス・電気セット割」の適用によるお得な料金メニューのご案内を行っています。今後も長年培った知識と経験を生かしエネルギーのプロとして、さらに新たなサービスを次々に開発していき、お客様の利便性を高められるようなご提案ができるよう努めていきます。

また、新規のお客様に当社をご利用いただけるようにガス導管未整備地区へのガス本支管の延長工事を計画的に進めています。アパートのオーナー様や不動産業者様、ハウスメーカー様、地場工務店様への営業を積極的に行い、シェア拡大を図ってまいります。

今後もお客様が安心してガスを使用していただける保安の確保と安定供給を第一に、地域に密着したきめ細かなサービスを提供することで地域社会の発展に貢献してまいります。

会社概要

■ 会社概要

△東京本社

- 会社名　東京石灰工業株式会社
- 代表者　代表取締役社長　菊池 宏行
- 設立　昭和16年8月
- 資本金　3,000万円
- 従業員数　70名（2018年9月時点）グループ全体　130名
- 本社　〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町2丁目2番1号
- URL　http://toseki.com/
- 事業所　**本社・東京営業所**　▶
  〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町2-2-1　東石ビル９Ｆ
  佐野事業本部　▶
  〒327-0505　栃木県佐野市山菅町3518

△佐野工場

工場
佐野工場　〒327-0505　栃木県佐野市山菅町3518
製砂工場　〒327-0505　栃木県佐野市山菅町3345
石岡工場　〒315-0007　茨城県石岡市大字染谷1854
岩間工場　〒319-0201　茨城県笠間市上郷3555
仙台工場　〒981-1242　宮城県名取市高館吉田字館山1
丸森工場　〒981-2145　宮城県伊具郡丸森町字川田島14-1
磐城工場　〒970-1146　福島県いわき市好間町榊小屋中根168

△丸森工場

- グループ企業
  東石日本砕石株式会社　〒315-0007　茨城県石岡市大字染谷1854
  東石岩間砕石株式会社　〒319-0201　茨城県笠間市上郷3555
  磐城砕石株式会社　〒970-1146　福島県いわき市好間町榊小屋中根168
  東石物産株式会社（佐野営業所、東京営業所、仙台営業所、丸森営業所）
  〒327-0505　栃木県佐野市山菅町3518
  東石建設株式会社　〒321-4367　栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1-6-4
  東石運輸株式会社　〒327-0505　栃木県佐野市山菅町3272-2
  佐野ガス株式会社　〒327-0845　栃木県佐野市久保町243
  バンクーバー支店
  TOSEKI　ENTERTAINMENT LTD(サーモンハウス、ホライズン)
  2223　Folkestone　Way,　West　Vancouver,　B.C.V7S　2Y6

- その他施設　**佐野東石美術館**　〒327-0013　栃木県佐野市本町2892(佐野ビル)

会社概要

■ 沿革

1941年（昭和16年）	東武開発㈱の商号をもって設立
1946年（昭和21年）	道路用骨材生産開始
1947年（昭和22年）	東京石灰工業㈱に商号変更　現在に至る
1954年（昭和29年）	佐野瓦斯㈱設立
	東石建設㈱設立
1955年（昭和30年）	佐野瓦斯㈱　ガス事業開始（石炭系製造ガスの提供）
1958年（昭和33年）	仙台工場開始(宮城県名取市）安山岩による月産8万t工場
1961年（昭和36年）	田沼農場開設(栃木県田沼町）田沼町岩崎に養豚事業開始
1962年（昭和37年）	東石運輸㈱設立　東京石灰工業㈱の運搬部門を分離独立（東石リース㈱の前身）
1963年（昭和38年）	磐城砕石㈱設立
1964年（昭和39年）	石岡工場開設(茨城県石岡市）硬質砂岩による月産15万t工場
1968年（昭和43年）	磐城工場開設(福島県いわき市）硬質砂岩による月産10万t工場
1971年（昭和46年）	岩間工場開設(茨城県岩間町）硬質砂岩による月産10万t工場
1974年（昭和49年）	佐野瓦斯㈱　製造ガスから天然ガスに転換
1981年（昭和56年）	製砂工場開設(栃木県葛生町）月産2万t工場
1984年（昭和59年）	丸森工場開設(宮城県丸森町）玄武岩による月産8万t工場
	前谷工場開設(栃木県葛生町）硬質砂岩による月産8万t工場
1987年（昭和62年）	葛生第二工場開設(栃木県葛生町）石灰岩による月産3万t工場
1995年（平成7年）	葛生水木工場開設(栃木県葛生町）石灰岩による月産5万t工場
2003年（平成15年）	佐野工場、石岡工場、岩間工場がコンクリート用砕石でJIS適合認証を受ける
2004年（平成16年）	磐城工場、丸森工場がコンクリート用砕石でJIS適合認証を受ける。これで、グループ内でコンクリート用砕石を製造する５工場全てが認証された
2005年（平成17年）	東石物産㈱設立(栃木県佐野市)
2007年（平成19年）	佐野瓦斯㈱　エコステーション事業開始
2011年（平成23年）	東日本大震災において、砕石や、飲料水を提供し、地域に貢献する
2013年（平成25年）	東日本旅客鉄道㈱より東日本大震災時の運転再開への貢献について感謝状をいただく
	東石日本砕石㈱設立
	東石岩間砕石㈱設立
2015年（平成27年）	一般社団法人　日本経済団体連合会に、砕石メーカーとして初めて入会
2016年（平成28年）	Ｍ＆Ａによりアサヒ道路㈱（舗装業者　東京都中央区）がグループに加入
	東石運輸㈱から東石リース㈱に商号変更
2017年（平成29年）	Ｍ＆Ａにより㈱建都（外構工事中心　埼玉県）がグループに加入

本報告書について

■ 知的資産経営報告書とは

知的資産は、財務諸表に記載される資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、知的財産（特許、ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表されにくい、経営資源の総称と定義されています。

知的資産経営報告書とは、目に見えにくい経営資源、すなわち知的資産を、債権者、株主、顧客、従業員といった企業のステークホルダーに対し分かりやすく伝えることで、将来にわたる企業価値向上に向けた取り組み（価値創造戦略）を共有するための資料です。

2005年10月には、経済産業省から「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、原則として、本書はこのガイドラインに準拠して作成しています。

本書に記載した将来の経営戦略及び計画ならびに附帯する事業見込みなどのすべては、本書作成日現在にて入手可能な情報をもとに当社独自の判断で記載しています。そのため、将来にわたる経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によっては、本書の内容を変更すべき必要が生じることもあり、本書が将来実施または実現する内容と異なる可能性もあります。

よって当社が将来にわたり、本書記載の内容すべてを保証するものではないことをあらかじめご了承ください。

■ 本報告書に関する問い合わせ

東京石灰工業㈱　佐野工場
総務課　　山口
TEL.　0283-85-3611
fax.　0283-86-4161
mail　head_office@toseki.com

TOSEKI

発行：東京石灰工業株式会社
初版：2018年12月